

【テーマ】

□ 中島みゆきと万葉歌
↳ ゼツタイ 参考にしているわあ 中島みゆきさん



■ 当代きつてのシンガーソングライターといえば、みなさんは誰を思い浮かべるでしょうか？ 私は…といえば、男性ならさだまさし、女性なら中島みゆきをまずは頭に浮かべます。今号で紹介する万葉歌は、その中島みゆきの歌を彷彿とさせるような歌です。いや実は、中島みゆきはこの万葉歌を参考にして歌を作ったのではないかということ、私は本気で疑っています。

公民館だより

2018年11月30日(金)

番外編・第10号

奈良市生涯学習財団 二名公民館

館長 上田善紀・発行

み吉野の青根が岳の蘿蓆 誰れか織りけむ 経緯なしに

作者不詳 卷七一―一二〇

吉野の青根が岳の蘿の筵は、いったい誰が織り上げたのだろう。たて糸やよこ糸の区別もなくて。

経もなく緯も定めず 娘子らが織る黄葉に 霜な降りそね

大津皇子 卷八一―一五二

たて糸もなくよこ糸も定めずに、娘子たちが織ったもみじの錦に、霜よ、降らないでくれ。

【解説】… 中島みゆきが作詞作曲を手がけた名曲の一つに『糸』があります。ウエディ

ングソングとして1992年に制作されました。

♪ なぜめぐり逢うのかを 私たちは なにも知らない

いつめぐり逢うのかを 私たちは いつも知らない

どこにいたの 生きていたの 遠い空の下 ふたつの物語

縦の糸はあなた 横の糸は私

織りなす布は いつか誰かを 暖めうるかもしれない

なぜ 生きてゆくのかを 迷った日の跡のささくれ

夢追いかけて 走って ころんだ日の跡のささくれ

こんな糸が なんになるの 心許なくて ふるえてた風の中

縦の糸はあなた 横の糸は私

織りなす布は いつか誰かの 傷をかばうかもしれない

縦の糸はあなた 横の糸は私

逢うべき糸に 出逢えることを 人は 仕合わせと呼びます

私は、この2首に触れるたび、中島みゆきがこれらを想起して作ったのではないか、この歌を下敷きにして作ったのではないかという思いを拭い去れないでいます。だって不思議じゃありませんか。古代から1300年以上も隔てた現代、詩心が同じだなんて…。 大津皇子と中島みゆきの発想がおなじだなんて…。

「経」とは織物のたて糸のことです。もとの字は「經」。右の旁は織機つくりにたて糸をかけ渡し、下部に工の形の横木をつけて糸を縦に張った形を表します。たて糸を中心に織物が進むことから「経営」(事業をいとなむこと)となります。また、たて糸は物事の基本であることから、儒教で最も基本的で重要なことが書かれている書物を「経典」といいます。「お経」も、そういった意味が含まれています。「経」とは重々しい意味合いを蔵した漢字だったんですね。

一方、「緯」は織物のよこ糸を意味します。

旁の「韋」つくり、この字の中央は「口」ですね。都市を取り囲む城壁を意味します。その上下を足が左にめぐり、右にめぐる形を表します。左に行き、右に行く形は織物のよこ糸を織る状態に似ているので「よこ糸」を意味するわけです。

「縦糸」・「横糸」とは表記しません。糸を織るには、縦横たてよこの糸はそれぞれ90度回転させ縦横たてよこが入れ替わることで「縦・横」は限定できないからです。ということとは、中島みゆきの詞の表記は不適切だと思われれます。漢字で書くのならば、「経糸・緯糸」です。

さて、1首目。青根が岳あおね たけ(＝青根ヶ峰)は吉野山最南端にある標高858mの山です。古来より「水分山」みくまりやまとも呼ばれた神奈備山(＝神が鎮座する山)です。その青根が岳の苔の美しさを表現したのですが、その蘿(苔)こけをよこ糸とたて糸で美しく編んでいるむしう蓆むしろにたとえているのですね。

もちろん、作者は自然が生み出した苔であるということは十分に承知した上で、「だれが編んだのだろう」と密集した苔の美しさをたとえているのです。この場合の蓆むしろは、農家の土間に敷いてあるようなわら筵むしろではないでしょう。貴人がすわったり歩いたりするときに敷く、今でいうレッドカーペットのような存在のものを指していると思われれます。したがって、「この苔はいつたいたいだれが編んだのだろうか」と、神聖な吉野の神々の存在を讃えているのです。

2首目。全山一面の紅葉を乙女たちが織る布だとたとえています。その乙女たちがたて糸もよこ糸も決めず自由きままに、様々な色彩の糸で、まるで刺繍のように織りなしているというのです。「娘子」とは、この場合仙女せんじよ(＝女性の仙人)のこと、ヨーロッパ風にいえば妖精ようせいでしょうか。せつかくの黄葉ちみじを霜が降りて枯れ葉にしないでおくれーといっているのです。

作者は謀殺ぼうさつされた悲劇の皇子みこ、大津皇子おおつのみこですが、晩秋の情景に心を留めて詠んだこのような歌から、豊かな感性を持った青年の姿が見えてきます。